



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
男女共同参画室

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5
(学際融合領域研究棟2号館3階)
TEL: 0743-72-5137/5138
FAX: 0743-72-5139
Email sankaku-jimu@ad.naist.jp
<http://www.naist.jp/gender/>

理系研究者 ロールモデル集 II



奈良先端大で
大切にしていること…

Equal Opportunity
Diversity
Family Responsibility
Happy Work, Happy Life

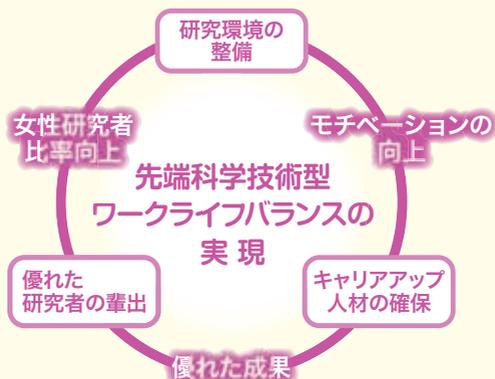
奈良先端科学技術大学院大学
男女共同参画室

室長 村井 眞二

| | |
|---|----|
| 将来の自分を描けるロールモデル | 2 |
| 「感謝して過ごすことを心がけています。」 神崎 雄一郎 | 4 |
| 「やりがいは、お客様に喜んでいただける 商品を作ること。」 須増 淳 | 6 |
| 「努力したことはありません。努力も 楽しんでいますから。」 的野 晃整 | 8 |
| 「研究同様、プライベートも 予定を立て始めました。」 古川 智久 | 10 |
| 「予想が裏切られることも、 また楽しみです。」 蘆田 弘樹 | 12 |
| 「モチベーションを保てたのは 生命現象への憧れ。」 多胡 憲治 | 14 |
| 「研究者の人たちは 楽しそうに見えました。」 富田 知志 | 16 |
| 「答えが一つしかない理系が好き。」 西山 靖浩 | 18 |
| 「自分の好きなことに没頭することが、 夢への一番の近道。」 片岡 恵太 | 20 |
| 奈良先端科学技術大学院大学男女共同参画推進シンポジウム ワークライフバランスとキャリアアップ・ 新しい時代の働き方 | 22 |
| 女性研究者支援モデル育成 先端科学技術を担う女性研究者の育成 | 24 |
| 男女共同参画関連情報 | 28 |

将来の自分を描けるロールモデル

職業意識を持って働く職員の多くの悩みは、将来の自分を思い描ける『ロールモデル』（行動のお手本、模範）が身近に存在しないことです。目指す先輩がいないことでキャリアを高める道筋が見えない、あるいはこれから起こりうる、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）の取り方がわからない等の理由で、自らのスキルアップに積極的になれないのです。自分らしい生き方、仕事と私生活を両立させるバランス、壁にぶつかった時の乗り越え方など、その時々で変わっていくワークライフバランスの取り方、働き続ける為のキャリアアップの方法を、少し先を行く先輩方にお聞きしました。



奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) では、女性研究者が研究を継続できる環境を整備することで、先端科学分野の女性研究者だけでなく、男性研究者も活躍できるよう以下のような取り組みを行っています。

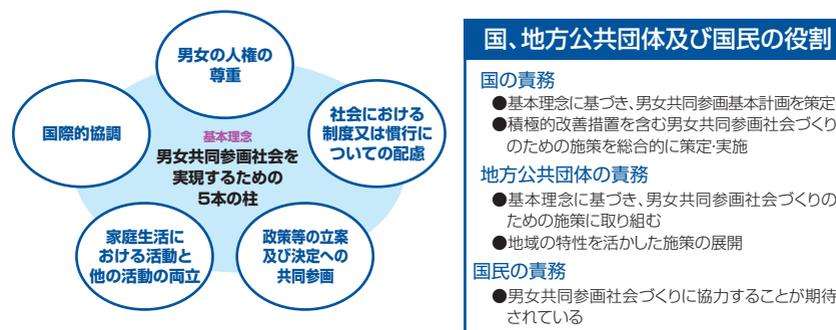
- ① **奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) 型ポジティブアクション**
(再任制度の充実・研究支援者の戦略的な配置)
- ② **在宅業務支援システム、及び地域女性研究者ネットワークの構築**
- ③ **先端科学技術型ワークライフバランス (WLB) の良い研究環境の構築やシステム改革**

男女共同参画社会とは

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)

男女共同参画社会基本法(平成11年6月23日公布・施行)

基本法では、男女共同参画社会を実現するための5本の柱(基本理念)を掲げています。また、行政(国、地方公共団体)と国民それぞれが果たすべき役割(責務、基本的施策)を定めています。



意欲に応じて

ひとりひとりの豊かな人生

仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現

誰もが平等と感ずることができ、一人ひとりがいろいろな夢を描いて明るく暮らせる社会でありたいものです。そのためには、女性と男性が、性別にかかわらず個人として尊重され、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現することが重要です。しかしながら、性別に基づく固定的な役割分担意識が影響した制度や慣行は依然として存在し、あらゆる分野や場面で男女が平等になっているとはいえない状況にあります。

こうした状況は、それぞれの人が理想とする生き方や社会での活動の可能性を狭めることにもつながるため、家庭、学校、職場、地域などにおいて、男女がお互いを尊重し、平等な立場で共同して社会に貢献できるシステムの構築が求められています。

感謝して過ごすことを心がけています。

進路の決定の きっかけは？

A 私自身が高専生のとき、面白い授業をされたり、独創的な研究に打ち込まれている先生方を見て、自分もいつか高専での教育の世界に入れたらいいな、

という思いを持ちました。大学院に進学したのも、高専の教員になるためには博士の学位が必要であると知ったからでした。博士後期課程修了時に、高専の教員採用の公募にいくつか挑戦し、最終的に現在の高専に採用していただきました。

現在の仕事(研学生活)での やりがい・楽しみは？

若手のうちから単独で1つの研究室が与えられ、数名の

学生たちと密接に関わりあいながら和気あいあいと研究ができるのが楽しく、やりがいがあります。高専の学生たちは上級生でも二十歳そこそこの若い世代ですが、探究心の強い意欲的な学生が多く、良い刺激をもらっています。また高専では、学級担任、クラブ活動の指導、寮の当直など、教育面での仕事内容が多岐にわたっていますが、それによって得られる貴重な人生経験も多くあるように思います。

ワーク・ライフ・バランスを 実現していく上で、心がけて いること(工夫・努力して いること)は？

A 片道一時間半の通勤時間
を利用し、気分を調整する
ようにしています。研究を
頑張りたいときは朝から

文献等を読んで始業時からスムーズに作業に入れるようにしたり、帰り道やちよつと
疲れたときは音楽を聴いてリラックスしたり、というような感じです。何よりも、
充実した日々を送るために、与えられている仕事や家庭に感謝して過ごすことを
心がけています。

休みの日は 何をして いますか？

A たまった家事を
済ませ、妻と山や
温泉までドライブ

することが多いです。九州は阿蘇など雄大な自然
がところどころに広がっているので、お出かけの場所
には事欠きません。特に天気の良い日の山歩きは
とても楽しく、ストレス解消になります。

後輩へのアドバイス をお願いします。

A 仕事として研究を続けていきたい場合は、
腰を据えて勉強できる学生時代に、興味のある分野の文献をじっくり読むことと、それに必要な基礎知識を身につけておくことはとても重要だと思います。また、インターンシップや海外での研究発表に参加するのは少し勇気がいるかもしれませんが、積極的に挑戦すると自信がついて良いと思います。大学院で身を削って打ち込んだことや蓄えた知識は、将来大いに役立つと思いますので、頑張ってください!



熊本高等専門学校
人間情報システム工学科
(奈良先端科学技術大学院大学
情報科学研究科 OB)

准教授 神崎 雄一郎

工学系

経歴

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 1999年 | 神戸市立工業高等専門学校 機械工学科卒業 |
| 2001年 | 神戸大学工学部 情報知能工学科卒業 |
| 2006年 | 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士後期課程修了 |
| 2006年 | 熊本電波工業高等専門学校 情報工学科 助手 |
| 2010年 | 熊本高等専門学校 人間情報システム工学科 准教授 |

1日の タイムスケジュール

| | |
|-------|-------|
| 6:00 | 起床 |
| 8:30 | 研究 |
| 12:30 | 昼食 |
| 13:00 | 授業・実験 |
| 16:00 | 会議等 |
| 19:30 | 帰宅 |
| 23:30 | 就寝 |

やりがいは、お客様に喜んでいただける 商品を作ること。

進路の決定のきっかけは？

A

博士前期・後期課程と移動体通信向けにOFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing)の研究をしていたこともあり、就職先も移動体通信の研究・開発ができることを希望していました。私が就職に向けて活動を開始した1998年頃の松下通信工業(株)(現在のパナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)の前身)は、学生だった私の目から見て、移動体通信の研究開発に非常に力を入れていこうという雰囲気を感じましたし、メーカーですので、自らの開発成果が商品に反映されるという喜びも味わうことができるのではないかと思います、入社を希望しました。

ワーク・ライフ・バランスを実現していく上で、心がけていること(工夫・努力していること)は？

A

私は博士後期課程修了直前に結婚した後に入社しましたので、会社生活の初めから家庭生活と両立させる必要がありました。両立のためには、家族の理解が必ず必要だと思っていますので、家族といかに信頼関係を築き自分の仕事に対する理解をしてもらうようにするかにコツがあるような気がします。では、どうやって信頼関係を築き深めていくかということ、コミュニケーションを丁寧に行うということになると思います。

私はあまりON/OFFの切り替えが上手な方ではありません。そのことを自覚しているので、どうにか自分なりにON/OFFの切り替えをつけてみようと思いやり始めたのが、仕事

中とプライベートで髪型・服装を変えるということです。仕事の時は、髪の毛はオールバックにしてジェルで固め、服装は襟付きのシャツに革靴。休日は一転して、髪の毛はおろし、服装もかなりラフにしています。私は眼鏡をいくつか持っていますが、眼鏡も仕事用とプライベート用に使い分けています。ここまでやると、切り替え下手の私でも、ONとOFFを切り替えられたような気になります。

“ON”と“OFF”との切り替えのコツは？

A

ストレスの原因となることは心理的にネガティブな作用があると思いますが、そのようなストレスの原因となることにもポジティブな側面を見つけて自分を納得させる、あるいは納得に近づけることだと思います。例えば、自分の不慣れな仕事を任された場合に、単にイヤだと思っただけでなく、慣れない仕事をこなすことにより自分のできる仕事の範囲を広げられるというメリットを認識する、ということなどです。悪い面しかない物事というのはなかなかないものです。ストレス対策に限らず、物事を多面的に見るというのはいろんな場面で大事な考え方だと思います。

ストレスを溜め込まないコツは？

A

現在の仕事(研究生活)でのやりがい・楽しみは？

A

自分が開発研究に携わった商品が世に出てお客様に新たな価値を提供できることです。もちろん、商品を出せば必ずお客様に受け入れられるとは限りません。だからこそ、お客様に喜んでいただける商品を作り上げることにやりがいを感じることができます。

ご自分の子供が研究者になりたいと言ったらどうしますか？

A

研究者に限らず、本人がなりたいたいと言うことは最大限尊重したいと思います。ただし、なぜなりたいのか？それを目指した場合のメリットとデメリットを理解しているのか？もしなれなかった場合はどうするのか？など、考えておくべきことが抜けていないかどうか話し合います。でも、やりすぎるとかえって本人のやる気をなくさせて成長を阻害するかもしれませんね。ほどほどにします…



パナソニック(株)東京R&Dセンター
次世代モバイル開発センター
(奈良先端科学技術大学院大学
情報科学研究科 OB)

主任技師 須増 淳

工学系

経歴

| | |
|-------|---|
| 1995年 | 大阪大学 工学部電気工学科卒業 |
| 1997年 | 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士前期課程修了 |
| 1999年 | 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士後期課程修了 |
| 1999年 | 松下通信工業(株) (現・パナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)) |
| 2006年 | 松下電器産業(株) (現・パナソニック(株)) |

努力したことはありません。 努力も楽しんでいきますから。

現在の仕事(研学生活)での
やりがい・楽しみは？

A

私の研究分野は、情報工学のデータ工学という分野で、主にデータを如何に扱うかを研究する分野です。この分野には、とにかくデータが好きの人が集まっており、私も例にもれず、データを扱うこと、見るのが好きです。中でも、自分の考えた手法を評価するときにデータを取るのですが、そのデータを見るときが最もドキドキ、わくわくします。もし自分が思っていたより良い成果が得られたときは、ガッツポーズをさせていただきます。

ご自分の子供が研究者になりたいと言ったら
どうしますか？

A

この原稿を書いている2010年12月現在はまだ子供は居ませんが、この原稿が公開される時期には生まれているはずで、研究者という職業には誇りを持っていますので、研究者を目指すことには反対はしないと思いますし、むしろ嬉しく思えるかもしれません。しかし、やりたい事はなんでも好きなことをして良いとまでは、言えないと思います。初めて親になるのでどんな心情になるのかまだわかりませんが、とにかく笑顔があふれる人生を送ってほしいと願っています。

ストレス発散方法かどうかはわかりませんが、産業技術総合研究所に入所したとき、同期のメンバーが始めたフットサルサークルに加入しました。それから週1回程度の頻度で練習をしています。サッカー等球技の経験はありませんので、正直言って下手くそです。でも、下手なりに本気で走って、ボールを追いかけています。得点できたときや、思った通りにプレイできたときは子供のようにしゃべっています。大の大人が本気になって、走りまわる機会なんてそんなにありませんので、これからもスポーツは続けていきたいと思っています。

ストレス発散方法は？

A

休みの日は何を
していますか？

A

最近始めた趣味にカメラがあります。毎週ではありませんが、天気の良い日や撮影チャンスがありそうな日はカメラを抱えて、撮影に出かけます。あくまで素人なので綺麗な写真を取りたいですが、なかなか難しいです。元々、出不清な性格なので、カメラという趣味を通して、外出する機会が増えました。カメラを持って外出すると、日頃は気がつかない色々なことに気がつくようになります。ファインダを通して見る世界は肉眼とはまた違って本当に面白いです。同じモノでもアングルや設定を変えると、全然違うモノのように見えます。

夢の実現に
向かって努力
したことは？

A

正直ありません。あったとしても忘れしました。私の信条として、楽観的に考えることを心がけています。悪い言い方をすれば、適当にその時の流れに身をまかせるようにしています。私の性格上、苦しんで努力しても継続できないので、逆に楽しんで努力するようにしています。そのためか、あまり努力した事は記憶に残ってなくて、楽しかったことはよく覚えています。

30年後自分は
どうなっていますか？

A

将来の事はわかりませんが、今のまま研究職をしている可能性は少ないかと思っています。情報工学は進化が速い分野で、5年後さえも予測しづらい分野です。上述した通り、流れに身をまかせる性格なので、他に興味あることが見つければ転職するでしょう。ただ転職するとしても今と同じく何かをクリエイティブする分野にいると思います。その意味では今の研究職という職業は必ず将来の糧になると信じています。



産業技術総合研究所・情報技術研究部門・サービスウェア研究グループ
(奈良先端科学技術大学院大学
情報科学研究科 OB)

研究員 野晃整

情報工学

経歴

| | |
|-------|--|
| 2000年 | 岡山県立大学情報工学部 情報通信工学科 |
| 2002年 | 岡山県立大学大学院情報系工学 研究科電子情報通信工学専攻博士 前期課程修了 |
| 2005年 | 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科情報生命科学専攻 博士後期課程修了 |
| 2005年 | 産業技術総合研究所グリッド 研究センターデータグリッドチーム (ポスドク) |
| 2007年 | 産業技術総合研究所グリッド研 究センターデータグリッドチーム (任期付研究員) |
| 2008年 | 産業技術総合研究所情報技術 研究部門サービスウェア 研究グループ(任期付研究員) |

1日の タイムスケジュール

| | |
|-------|-------------------|
| 9:00 | 起床 |
| 9:30 | 朝食 |
| 10:00 | フットサルの練習 |
| 14:00 | 昼食 |
| 15:00 | スーパーマーケット で買い物 |
| 19:00 | 夕食 |
| 21:00 | 仕事・自由時間 |
| 23:00 | 入浴・ペット歯磨き |
| 24:00 | 仕事・自由時間 |
| 26:00 | 就寝 |

研究同様、プライベートも予定を立て始めました。

進路の決定の
きっかけは？

A 高校1年生の時の生物の授業を聞いて、生物学の分野は面白いと感じて生命科学系の大学に進みました。その時の先生は大学院まで出ていて、話を聞いて

いると生物学の研究が好きなのが伝わってくるような感じでした。一方で生物学の研究にはお金がかかるというような現実的なことも聞かされ、生物学の研究をしたいのならば研究設備が整った大学に進学するようにも言われました。そのこともあり、大学を選ぶ時は研究設備が整っているかなど面白さ以外の点も気にするようになりました。

ご自身はどんな
子供でしたか？

A 小学生の時にファミコンが流行っていた世代だったこ

ともあり、テレビゲームをよくやっていました。漫画をよく読んだり、テレビをよく見ていました。ゲーム、漫画やテレビは子供の教育によくはないと言われてしましますが、ゲームや漫画を通して科学の話や未来の技術に興味を持つようになった面もあると思っています。テレビもクイズ番組をよく見ていた時期があったので、それで増えた知識もあったと思っています。

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

A 仕事とプライベートの切り替えは上手にできているとは言えません。土日研究室にいる時間は多く

なりがちです。実験の切りがよい時に休もうとするとなかなか休めなくなってしまうので、休む日は早めに決めるように努力しようと心がけてはいます。遊びに行く計画を先に立てるのは重要なことだと考えています。研究室内には夏休みやゴールデンウィークの計画を1年くらい前から立てている人もいますので、少しは見習いたいと思っています。

A

時間が少しある時は大型のショッピングセンターか

家電量販店に行きます。新しい商品が出ているかを確認することが楽しみになっています。夜遅くまで開いているので、研究室から帰った後の夕方くらいから出かけて行っても大丈夫な場所だからという理由もあります。連休の時などで丸1日休み日がある時は水族館か城を見に行くようになりました。まだ行ったことがない所を探して順番に行くようにしています。目的(行く場所)を先に決めないと、研究室にいる時間が多くなってしまいます。

休みの日は
何をして
いますか？

何故今の研究分野が
面白いと思いましたか？

A 生命科学系の分野自体は面白そうだと選んで選びましたが、大学院での研究室を選ぶ時は研究テーマの面白さよりは、その研究室で身に付けられる技術などが将来役に立つかどうかなども気にしました。好きなことをやってお金を稼げたらよいですが、面白いかどうかという理由だけで選ぶと仕事としてやっていくのは難しいのではという考えも頭の片隅にあります。それでもやっているうちに自分の研究テーマは面白いと思うようになっていきます。



独立行政法人医薬基盤研究所
幹細胞制御プロジェクト
(奈良先端科学技術大学院大学)
(バイオサイエンス研究科 OB)

特任研究員 古川 智久

分子生物学

経歴

| | |
|-------|---|
| 2001年 | 東京工業大学生命工学部 生体機構学科卒業 |
| 2003年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞生物学専攻博士前期課程修了 |
| 2007年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞生物学専攻博士後期課程修了 |
| 2007年 | 独立行政法人医薬基盤研究所 遺伝子導入制御プロジェクト 特任研究員 |
| 2008年 | 独立行政法人医薬基盤研究所 遺伝子導入制御プロジェクト リサーチレジデント |
| 2010年 | 独立行政法人医薬基盤研究所 幹細胞制御プロジェクト 特任研究員 |

1日の
タイムスケジュール

| | |
|-------|-------|
| 8:00 | 起床 |
| 9:30 | 出勤・研究 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:00 | 研究 |
| 22:30 | 帰宅 |
| 23:00 | 夕食 |
| 23:30 | 自由時間 |
| 25:00 | 就寝 |

予想が裏切られることも、また楽しみです。

進路の決定の
きっかけは？

A

私の中での進路決定のタイミングは、大学学部から本学に博士課程前期への入学を決めた時と、本学で博士課程後期に進学する時であったと思います。それぞれの時期で、もっと自分の興味有る基礎研究を続けたいという気持ちが進路を決定した一番の要因でした。思い返せば、研究の世界の”いろは”も知らず、将来設計などまったく考えない進路決定であったと思いますが、その当時は迷うこともなく、自分の気持ちに正直に従った結果でした。

研究者として成功するという点ではまだまだ夢の途中ですが、夢への通過点として、学位取得

A

夢の実現に向かって
努力したことは？

の中で自分にある課題を与えました。博士後期課程では、当時、何をしているかわからない遺伝子の働きを調べていました。この遺伝子の謎を解き明かすことができなければ、将来、研究者なんかやっていくことができないと思い、答えに行き着けなかった場合は研究者の道を諦めることに決めていました。そのため、寝ても覚めても、この遺伝子のことばかり考え、昼夜を問わず研究に没頭しました。その甲斐もあり、答えに辿りつくことができました。この課題を克服したことは、自分の夢を実現するための初心・原点として、今も精神的な支えとなっています。

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

A

研究生活と家庭生活を両立できているとは思いませんし、仕事にかなりの比重を置いた生活をしています。これは、ひとえに妻の協力の賜です。ただ、特別なことがなければ、仕事が溜まっていても夕方は決まった時間に毎日帰宅し、家族と一緒に時間を過ごすようにしています。また、休日は、子供と

現在の仕事(研究生活)
でのやりがい・楽しみは？

A

私はいつからか、“生物とは何なのか？”ということに興味を抱き、そのうち、自分も生物であることから、“自分は一体何なのか？”と思うようになり、バイオサイエンスの世界に引き込まれました。しかし、生物の勉強をすればするほど、ほとんど分かっていない生物の仕組みの上に、自分が存在しているのだと分かりました。現在、私は植物の光合成の仕組み、いわゆる1つの生物の仕組みを研究しています。この中で、生物の仕組みに組み込まれ支配されている自分が、その仕組みを解明できるのか？と感じながらも、研究に取り組み、予想通りの実験結果が出たときの興奮は一入です。逆に、予想と異なる結果が出ることも多々あります。これはこれで、私なんかには解明できない生物の想像を超える可能性に喜びを感じます。生物の仕組みに、予想が裏切られることも、また楽しみです。

ずっと一緒にいて遊ぶことに決めています。このような時間は、家で仕事のことは一切考えず、仕事は大学でのみします。ですから、曜日を問わず、子供が寝てから大学に来て、夜の時間を仕事に回しています。私の場合、家族と過ごす時間は、メリハリを付けることとストレス解消に重要なひとときです。



奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科
分化・形態形成学講座

助教 蘆田 弘樹

バイオサイエンス

経歴

| | |
|-------|---|
| 1997年 | 大阪府立大学 総合科学部総合科学科卒業 |
| 1999年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 博士 前期過程修了 |
| 2003年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 博士 後期過程修了 |
| 2003年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教務職員 |
| 2004年 | オーストラリア国立大学・生物化学 研究所 Research fellow |
| 2005年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助手 |
| 2007年 | 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教 |

1日の
タイムスケジュール



モチベーションを保てたのは生命現象への 憧れ。

進路の決定の きっかけは？

A 高校の理科の教師だった父の影響だと思いますが、幼いときから自然科学に興味を持っていました。化学や生物に関連した雑誌や書籍に囲まれた環境で育ちましたが、その一方で小さい頃はかなり不器用な子供で実験は苦手でした。大学に入ってからも学生実習は居残りになることも多いくらいに不器用でしたが、ただ生命現象に対する憧れのようなものが自分の方向性を決めてくれた様に思います。

生物、生命現象に対する単純な憧れがモチベーションだったので、正直に言って努力と言えるようなことはしていません。

ただ、常に面白そうなことに対するアンテナは立てていました。学部生の時に発がんのメカニズムに興味があったのですが、何も考えずに入学した大学にそのような研究室はなく、最初はかなり落胆しました（本当にアンテナは機能していたのか?）。しかし、がん細胞表面の糖鎖構造に興味を持ったことから糖鎖合成酵素の研究室に入り、それが現在の研究分野である細胞増殖を制御する細胞内シグナル伝達系の世界に入って行くきっかけになりました。

夢の実現に向かって 努力したことは？

A

ワーク・ライフ・バランスを 実現していく上で、心がけて いること(工夫・努力して いること)は？

A

正直、「ON」と「OFF」の切り替えは苦手です。ストレスを溜め込まないコツも知りません。期待していた実験が失敗すれば、今でもかなり落ち込むことがあります。妻も研究者で、東京の大学で仕事をしていますが、会えるのは2週に1度くらいです。今後一緒に暮らせるかどうか分かりませんが、仕事も含めて先のことは見えなことばかりです。見る人によってはメチャクチャに思えるかもしれませんが、ただ、この年齢になって分かるのは、人生は「なる様にしかならない」こと。大事なことは自分の置かれている環境から数多くのポジティブな要素を見出して、それだと思っています。それができないと、どんな恵まれた環境も意味がないと思っています。

現在の仕事(研究生活)での やりがい・楽しみは？

A

教科書などを読むと全てが明らかになっているのかの様な細胞内シグナル伝達系ですが、本当のところは全然分かっていません。実験は結果を予想するのも大事ですが、あまり決めつけられない方が良くも良いことも多い。やってみたら予想と全然違っていったなんてことは珍しくありません。つまらない結論に達するときもありますが、時にはプロジェクトにとって大きな転機になることもあり、非常にやりがいを感じる瞬間です。一緒に仕事をしている学生さんの成長も嬉しいことの一つです。昼食のときの学生さんとの会話が次の実験の着想点となったときには、自分が置かれている環境のありがたさを感じます。

研究者を目指す後輩への アドバイスをお願いします。

A

博士取得後の進路など不確定な要素の多い現状では、なかなか希望を見出せないかもしれません。ただ、そんな状況でも、大事なことは研究への興味や憧れであると敢えて申し上げておきたいと思います。私のようなAverageな研究者がここまで来たのは不思議な気もするのですが、私自身はただ研究に対する興味や憧れだけをモチベーションにして研究してきました。そんな私を見てくれている人も意外といたようで、実際に私はピンチの時にもたくさんの人から助けられてきました。結局、研究に対する興味と憧れ、多くの研究者の方々との関わりが自分をこの環境に置いてくれている気がします。



奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科
細胞内情報学講座

助教 多胡 憲治

生物系

経歴

| | |
|-------|--|
| 1993年 | 埼玉大学理学部生化学科卒業 |
| 1995年 | 東京工業大学生命理工学 研究科博士前期課程修了 |
| 1998年 | 東京工業大学生命理工学 研究科博士後期課程修了 |
| 1998年 | 自治医科大学医学部 生化学講座助手 |
| 2002年 | 米国St. Jude Children's research hospital Research Associate |
| 2006年 | 奈良先端科学技術大学院大学 助手(2007年より助教) |

1日の タイムスケジュール

| | |
|-------|-------------------------|
| 8:00 | 起床、朝食 |
| 9:30 | 出勤・研究 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:00 | 研究 |
| 19:00 | 学生とジョギング |
| 20:30 | 一時帰宅、夕食・ 洗濯など |
| 22:00 | 大学に戻って、研究、 明日の準備や片付け |
| 24:00 | 帰宅 |
| 25:00 | 就寝 |

研究者の人たちは楽しそうに見えました。

進路の決定の
きっかけは？

A

特別なきっかけは記憶にありません。学部・修士時代にやっていた研究が面白かったのも、そのまま素直に博士課程に進みました。当時は身近に研究者の

ロールモデルもあまりなかったのも、それほど深く考えなかったことが、かえって良かったのかもしれません。その数少ない身近な研究者の人達は皆、楽しそうに

仕事をしているように、少なくとも当時の僕には、見えました。仕事に関しては、他の仕事でも結構楽しめたのかもしれません。ただ僕の学生時代は、いまと同じ「就職氷河期」で、選択肢があまりありませんでした。あとひとつだけ、「毎朝ネクタイを締めて満員電車で揺られるのはたぶん耐えられない」と思ったことは覚えています。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を聞かされた時に、常々その意味について考えます。そもそも「右と左でバランスをとる」という言い回しからも、

A

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

“バランス”するのは瞬間的に対立している概念(もしくは両極にあるモノ)なのでしょう。では“ワーク(僕にとっては研究教育生活)”と“ライフ(人によって様々だと思いますが僕にとっては第一には家庭での生活)”は“対立”しているのか？僕はどちらかと言うと、“ワーク”は“ライフ”に“含まれる”と考えてしまうたちです。もう少し正確に言うと「互いに包摂される」と言った方が良いでしょう。よって“バランス”が取れなくても、それはそれで良いのではないかと感じます。もちろん「バランスをとる努力」をすることを否定しているではありません。たとえ短期間で“バランス”を崩していても、長期間(極端な話、その人の人生全期間)で“収支”が合っていれば、それで良いんじゃないかなと思います。あとはそれを寛容できるシステムの問題だと思います。そう意味で自分自身は瞬間瞬間のバランス感覚がとて悪いので、この設問に答えるのはとても難しいです。

とはいえ、ストレスはどうやってもかかりますし、どんどん溜まります。また僕はON/OFFの切り替えがそれほどうまくありません。ただ“ワーク”や“ライフ”でのストレスは、それぞれその中でしか解消できないような気がしています。つまり仕事でのストレスは、仕事でしか解消できない。前段の「包摂」という考えと矛盾するような気もしますが、そういう意味で、片方をもう一方に持ち込まないように極力心がけています。ただすぐに顔に出る

たちなので、家族にはいつもバレーバレーのようですけど。あとライフ、特に妻との生活で心がけていることは、「妻は元々他人だ」ということです。例えば何十年も付き合っている両親や兄弟なら言う必要もないことも、“元々他人”の妻には言葉を尽くして説明する必要がある場合が多いと思います。結局のところ、「結婚後はコミュニケーションが想像以上に必要だ」というありきたりの感想です。ただこれも僕自身がそれを実行できているかどうかは、かなり自信がないので、あまり偉そうなことは言えません。

研究者を目指す後輩への
アドバイスをお願いします。

A

自分が「幸運の持ち主だ」と思えるなら、この仕事は向いていると思います。これは「周りから客観的に見てその人が幸運かどうか」はそれほど重要ではなく、「自分が置かれている状況を自分自身で幸運と思えるかどうか」という意味です。

ご自分の子供が研究者
になりたいと言ったら
どうしますか？

A

自分と別の分野だったら積極的に勧めます。自分と同じ分野だったら、かなり悩みます。

もう一度学生に戻ったら
何がしたいですか？

A

いま思うことは、図書館に籠って、本を読みふけりたいです。



奈良先端科学技術大学院大学
物質創成科学研究科
量子物性科学講座

助教 富田 知志

ナノ物質科学

経歴

2002年 神戸大学大学院自然科学
研究科博士後期課程修了
博士(理学)

理化学研究所博士研究員、JSTさきがけ
専任研究員を経て

2006年 奈良先端科学技術大学院大学
物質創成科学研究科 助手
現在同助教

答えが一つしかない理系が好き。

進路の決定の
きっかけは？

A

小さい時から答えが一つしかない理系科目が大好きでした。また父が大学で化学を教えていたこともあり、化学に携わる機会も

多かったと思います。そのため、自然と化学を学びたいと思うようになり、大学では化学を専攻しました。大学では所属した研究室の教授に有機光化学の面白さを教えて頂くとともに、研究者としてあるべき姿を指導して頂きました。尊敬できる父と指導教授という二人の研究の大先輩の存在を目の当たりにすることで、研究者として生きていきたいと思うようになりました。

化学はデータで議論をしますが、決して自分が予想した通りの結果になることばかりではありません。むしろそれ以外の結果になること

現在の仕事(研究生活)での
やりがい・楽しみは？

A

の方が多と思います。その時は「なぜこの結果がでたのだろう」とデータに真摯に向き合わなければなりません。そしてそこから答えを導くためにはまた新たな仮説をたてて、それを実証するための実験を行う必要があります。これは非常に困難なことですが、困難だからこそ、自分が提案した仮説にあつようなデータが出てくれた時の喜びは何にも代えがたいものがあると感じています。

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

A

今年の1月に初めての子供が生まれたので、子供と触れ合っているときはストレスから解放されています。そのため、できるだけ

朝早くから仕事をして、早く帰り子供と触れ合う努力をしています。実験の都合で早く帰れない場合にはとことんまで実験をして、平日中に終わらせることで、休日まで仕事を引きずらないようにしています。また、子育てはかなり妻に任せきりのため、できるだけ妻と子育てについても会話をして妻の負担を軽くするように心がけています。(あまり実行できていませんが。)

研究者を目指す後輩への
アドバイスをお願いします。

A

研究は思い通りに進まないものです。よってどれだけ努力をしても報われないと感じる時が必ずあると思います。そんなときは一人で考え込まず、是非周りの人にどんどん助けを求めてください。研究とは自分が手を動かして進めていくという意識が重要ですが、決して一人だけで進めるものではないと思います。先生、先輩に限らず同級生や後輩と言ったたくさんの人達とディスカッションをすることで、自分には見えていなかった新たな発見が見えてくることもあると思います。

休みの日は
何をしていますか？

A

休みの日は子供との触れ合いも兼ねてできるだけ家族で買い物など外に出かけるようにしています。また家にいるときは子供と遊ぶことに加えて、読書をしたり、ゲームをしたりDVDを見たりと仕事からできるだけ離れるようにしています。また、一人暮らしの時は料理をすることも好きだったので、ごくたまにですが、料理を作って自分のストレスを発散するとともに微力ながら妻の家事の手伝いをしています。家族との触れ合いや自分の趣味に時間やお金を使うことで体も心もリフレッシュをして、次の日からの仕事への活力を養っています。



奈良先端科学技術大学院大学
物質創成科学研究科
反応制御科学講座

博士研究員 西山 靖浩

有機光化学

経歴

| | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 2003年 | 大阪大学 工学部応用自然科学科卒業 |
| 2005年 | 大阪大学大学院 工学研究科 分子化学専攻 博士前期課程修了 |
| 2008年 | 大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了 |
| 2008年 ~2010年 3月 | 住友ゴム工業株式会社 勤務 |
| 2010年 3月~ | 奈良先端科学技術大学院大学 博士研究員 |

1日の
タイムスケジュール



自分の好きなことに没頭することが、夢への一番の近道。

進路の決定のきっかけは？

A

子供の頃から電気製品を分解したり、パソコンをいじったり、テクノロジーに心を惹かれていました。そのため、高校では理系科

目の成績が悪かったのにも関わらず、迷わず理系に進学しました。しかし大学時代には、自分は何者にもなっていないといった漠然とした不安がありました。そういった意味で、大学院進学は自分にとって大きなターニングポイントとなりました。自分の好きな最先端のテクノロジーに関わる研究を通して何者かになるため、環境を変えて打ち込むことを決意しました。

大学院で研究を始めて、自分のやりたいことが見つかったと思いました。そしてずっと研究を続けていきたいといった思いが強くなりました。そのためには研究職に就かなければなりません。大学院での5年間は研究に没頭しました。納得がいくまで研究をやりぬくことが、次の研究職に繋がると考えたからです。

夢の実現に向かって努力したことは？

A

材料開発の研究者と連携し、様々な分析を通して課題解決をバックアップしています。また課題解決に役立つ新規

分析手法の探索や開発を行っています。分析の仕事は、研究開発の決定的な羅針盤になる可能性を持っており、自分のアイデアと努力次第でインパクトのある成果が狙えます。また分析という業務の性質上、これまで知らなかった材料を扱ったり、多分野の研究者と一緒に仕事をしたりすることができ、視野が広がりました。

現在の仕事(研究生生活)でのやりがい・楽しみは？

A

研究者を目指す後輩へのアドバイスをお願いします。

A

夢を実現するための一番の近道は、自分の好きなことに没頭できる能力にあるのではないかと思います。大学院時代は一つの研究だけに没頭できる貴重な期間です。たくさんのことを学んで、研究のスキルを磨いてください。また、楽しみながらやれるかどうかも重要です。研究を嫌いになってしまっただけでは本末転倒です。適度に息抜きをして、楽しみながら研究を続けてください。

ワーク・ライフ・バランスを実現していく上で、心がけていること(工夫・努力していること)は？

A

ほとんどの仕事は自分の裁量で進められるので、時間を決めてあまり無理をしないようにしています。だらだら仕事しないので、集中して短時間に終わるように心がけています。家庭では共働きなので、平日は先に帰った方が夕食を作ります。料理の時間は私にとって趣味のようなもので、この時は仕事のことは考えず集中できるので、良い息抜きになっているように思います。その他にも、本を読む、ゲームをする、など別のことに集中する時間を作って、バランスをとっています。



(株)豊田中央研究所
分析・計測部 ナノ解析研究室
(奈良先端科学技術大学院大学
物質創成科学研究科 OB)

片岡 恵太

理学系

経歴

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 2001年 | 電気通信大学 電気通信学部 電子物性工学科卒業 |
| 2003年 | 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学専攻博士前期 課程修了 |
| 2006年 | 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学専攻博士後期 課程修了 |
| 2006年 | (株)豊田中央研究所 |

〈基調講演〉

「21世紀を支える多様な人材への期待」

篠村 知子 (帝京大学 理工学部
バイオサイエンス学科 教授)

近年、企業における男女共同参画の取り組みは、女性社員を支援する諸制度の拡充から一歩進めて、男女問わず効率的に仕事を行って私生活も充実させるという働き方の意識改革が重要であるとの考えから、ワーク・ライフ・バランスの実現に力をいれるようになってきています。

そのことの背景には、「企業の生産性の高さとワーク・ライフ・バランス充実への取り組みとの間にはきわめて高い相関がある」との社会科学的な統計調査結果が後押ししています。一例をあげると、経済産業省「男女共同参画研究会報告」(2003年)では、女性比率が高い企業ほど(特に男女勤続年数格差が小さい、女性管理職比率が高いという特徴をもつ)利益率が高いという調査結果が示されています。同報告では、そのように業績の高い企業を目指すには、(1)単純に女性を増やそうとするのではなく女性が戦力となる施策が必要、(2)性別に関係なく個人を適切に評価し、産後休業や育児休業を過剰にマイナスとしないこと、(3)育児休業の取得や残業時間を減らすなどのワーク・ライフ・バランス施策を社会全体で推進すべきであること、(4)女性の一部もリーダーを目指し組織改革を推進することが重要である等を概説しています。加えて、女性比率が高いというのは表面上の現象で、本当の生産性(利益率)の高さの原因は、社員ひとりひとりを大切にす社風にあるのだと結論づけられています。

このように、企業における男女共同参画の取り組みは、これまでの諸制度整備

が一応の成果をあげ、現在は運用と改善へのフィードバックが必要な新しい段階に入っているといえます。具体的には、働き続けることからよりよく働くことを目指し、ロールモデルの提供、メンターといったアドバイザー指導者制度の導入などの取り組みを始めている企業もあります。



〈パネルディスカッション〉

「研究者のワークライフバランスについて」



Q1 研究者のWLBとは何か？

- ある時期は、寝食を忘れて研究することも大切ですが、定年までの環境や体力を考えると一本調子では物事は運びません。変化をつけること、家族やチームなど周りとのバランスも必要になってきます。
- 子供が生まれて、自分の時間が自由にならなくなってWLBのあり方を考えました。計画を立ててやらなければならない研究が多く、家族やお世話になっている教授など周りと相談して、対応しています。研究補助員を雇ったり、研究室の皆さんのサポート、在宅で仕事をできる環境があったので、研究を続けることができています。

Q2 企業での研究は、定時を過ぎても可能ですか？

企業にもよりますが、夜中までの仕事は、特例がない限りできません。仕事を家に持ち帰ることも出来ないため、就業時間の中で、1日のスケジュールを確認して、効率的に研究することに努めています。

Q3 女性研究者の人材を活かしていないのはなぜでしょうか？

欧米諸国と比べると研究者に占める女性の割合は、確かに低いです。その理由の一つとして、親族からの「女性は、結婚して子供を育てるのが当たり前」という意見であり、研究者になることを反対されるケースも珍しくありません。しかしながら、大学では出産・育児を配慮したシステムも出来ており、このような考えも改善されていくと思います。

研究者を志す後輩たちへのメッセージ

- 大学、研究機関、企業……。研究者といえども、いろいろな形がありいろいろな道があります。もし、可能であれば、進路を決める前にどの道が自分にとって最適なのか探ってみてください。私は、いつでも道の修正は可能だと思っていますので、とりあえずトライしてみるのもありだと思います。後悔しないように進んで下さい。(企業研究者)
- もし、自分で本当にやりたいことがあったら、怖くないで一歩踏み出してみて、それから考えてみていいのではないかと思います。参考にしてみてください。(大学教員)
- WLBのバランスはどうしても、100ある時間をどのように割り振るか、になってしまいます。しかし例えば、webサイトを覗きに行ったとき、ほんやり眺めるだけなのか、そこから様々な情報を取り入れるのかで、100ある時間が150の価値になるかもしれません。ないものでバランスを取るのは無理があります。感受性を大切に、バランスがとりやすくなるよう、考えていって下さい。(大学教員)
- 学生時代に、知識や技術を貯金しておくことが、唯一できることではないかと思っています。WLBの将来の向上にむけて、今、貯金をして下さい。(大学教員)
- WLBは先生、先輩、家族、友人、恋人など様々な人と話し、それらを参考にして自分でしっかり設計していくのが大事だと思います。周りとのバランスも大事です。例えば結婚すれば相手のWLBにも影響を与えます。お互いに認め合い、多様な人材が生きる社会になっていけばいいと思います。(大学研究生)

女性研究者支援モデル育成 先端科学技術を担う女性研究者の育成

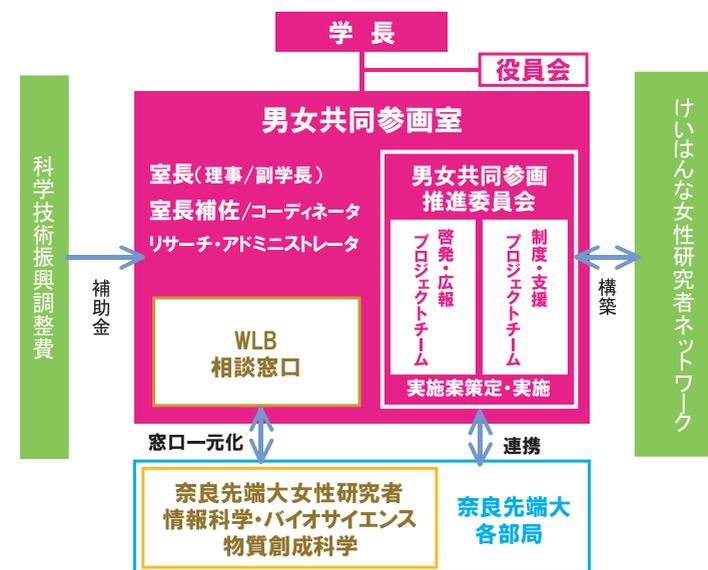
奈良先端科学技術大学院大学では、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に提案した「先端科学技術を担う女性研究者の育成」(平成21年から3年間)が採択されたのを機に平成21年9月1日に男女共同参画室を設置しました。

事業の趣旨

本事業では、先端科学分野の女性研究者が独創的でイノベーティブな研究成果の創出と国際競争力の向上に貢献できるよう、NAIST型ポジティブアクション、在宅研究教育支援システム、並びに地域(けいはんな)女性研究者ネットワークの導入により、この分野で出産・育児に伴う女性特有の様々な障壁や負荷を軽減し、女性研究者・教員の自主的な教育・研究活動をバックアップし、先端科学技術型ワークライフバランス(WLB)のよい研究環境の構築やシステム改革を行うことを目指しています。

この事業は将来、その対象を、女子大学院生、女性事務職員のみならず、留学生や男性若手研究者/職員への適用も視野に入れています。この活動の結果、多くの女性研究者が十分にその能力を発揮でき、優れた研究成果を挙げ、キャリアアップし、若手研究者とともに後進の女性研究者の育成ができる環境づくりを目指しています。

運営体制



期待される波及効果

けいはんな女性研究者ネットワークの構築は、大学・企業間での情報交換を促し、相互に男女共同参画活動の推進を加速する効果が期待されます。また、主催イベントでの託児室の設置は学外の研究者の支援でもあり、本学の男女共同参画活動の情報発信の場でもあります。子どもを連れて出張やイベントでの託児室等の事業が他大学でも実施されれば、大学間ネットワークが構築でき、出張先等遠隔地でのベビーシッター、託児スペースの手配等相互に協力が可能となり効率的な運用が期待できます。

実施期間終了後の取組

実施期間終了後も各支援を継続し、女性研究者による研究成果の生産性の向上、キャリアアップの加速を支援し、先端科学技術を担うリーダー的な女性研究者を育成、さらに、対象を子育て期にある男性研究者にも広げ、「優れた研究活動と充実した家庭生活とを両立させた一流の研究者」の増加へとつなげます。

「先端科学技術を担う女性研究者の育成」プログラムの 3つの支援項目

全学的な男女共同参画支援 女性研究者支援 意識啓発・情報支援

支援項目

学長のリーダーシップのもと、本学内外に向けて女性研究者が働きやすい環境を整えていきます。

■全学的な男女共同参画支援

●女性研究者採用・登用システム

分野ごとに業績評価制度・評価基準を設け、出産・育児を配慮したシステムづくりを目指しています。また、新規採用女性研究者のインセンティブとして、スタートアップ研究費を配分します。

●曼陀羅atホーム／先端科学型ワークライフバランス

妊娠中の研究者が放射線・化学薬品を使用する実験指導、実験観測を遠隔で行う遠隔実験支援システムを構築し、在宅のまま研究等に携わることができるユビキタス研究教育用ネットワーク環境を整備します。

■女性研究者支援

●奈良先端大型ポジティブアクション

出産・育児期にある任期付の女性教員の任期更新を可能とする制度、出産・育児期の女性研究者にアカデミックアシスタントの配置を実施しています。さらに、出産・育児中の職務軽減制度の実施や、女性研究者のキャリアアップ支援などを検討していきます。

●プラスα保育

オンデマンド学内保育(通常の保育時間外等)の実施及び、出張時保育などの支援を検討。また、主催イベントにおける託児サービスを実施します。

■意識啓発・情報支援

●けいはんな女性研究者ネットワークの構築

女性研究者・技術者・女子大学院生間での交流、けいはんな地区の研究機関との女性研究者ネットワークを立ち上げました。

●WLB(ワークライフバランス)相談窓口

育児と研究の両立といったワークライフバランスに関する様々な相談・問い合わせを一元的に受付ける相談窓口を開設しています。

●メンター制度(登録制)

育児・介護などの経験のある研究者をメンター(先輩)として紹介し、同じ研究者の立場からの相談に対応します。

●シンポジウムの開催

学外から講師を招き、学内構成員を対象とした男女共同参画に係るシンポジウムを開催し、学内外での意識啓発を進めていきます。

男女共同参画関連情報

男女共同参画に関連するサイトをご紹介します。

| | 主な内容 | HPアドレス |
|----------------|--|---|
| 内閣府 | 男女共同参画局 | http://www.gender.go.jp/ |
| | 男女共同参画チャレンジサイト | http://www.gender.go.jp/e-challenge/ |
| | チャレンジキャンペーン ～女子高校生・女子学生の理工系分野への選択～ | http://www.gender.go.jp/c-challenge/ |
| | 仕事と生活の調和推進 | http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html |
| | 調査研究・統計 | http://www.gender.go.jp/research/ |
| 文部科学省 | 科学技術・学術関係人材の養成・確保について | http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ |
| (独) 科学技術振興機構 | 科学技術振興調整費業務室 | http://www.jst.go.jp/shincho/ |
| | 経営企画部 男女共同参画 | http://www.jst.go.jp/gender/ |
| | “なでしこ”キャンペーン | http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/nadeshiko/ |
| | 女子中高生の理系進路選択支援事業 | http://rikai.jst.go.jp/jyoshi/ |
| (独) 日本学術振興会 | 特別研究員(RPD) | http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_gaiyo.html |
| (独) 国立女性教育会館 | | http://www.nwec.jp/ |
| (財) 日本女性学習財団 | | http://www.soc.nii.ac.jp/jawe2/ |
| 厚生労働省 | 子ども・子育て支援 | http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/ |
| | 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画について (くるみんマーク) | http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/jisedai/ |
| (財) 女性労働協会 | 女性と仕事の未来館 | http://www.miraikan.go.jp/ |
| (財) 21世紀職業財団 | | http://www.jiwe.or.jp/ |
| 総合科学技術会議 | 科学技術政策 | http://www8.cao.go.jp/cstp/stmain.html |
| 日本学術会議 | 男女共同参画分科会 | http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/danryo/ |
| 男女共同参画学協会連絡会 | | http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/ |
| | アンケート・調査 | http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html |
| 女性科学者に明るい未来をの会 | 猿橋賞 | http://www.saruhashi.net/saruhashi.html |
| 日本女性科学者の会 | | http://www.sjws.jp/ |
| 日本女性技術者フォーラム | | http://homepage3.nifty.com/jwef/ |
| 法律・計画・白書 | 男女共同参画社会基本法 | http://www.gender.go.jp/9906kihonhou.html |
| | 男女共同参画基本計画(第3次) | http://www.gender.go.jp/kihon-keikaku/3rd/ |
| | 科学技術基本法 | http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kagaku/kihonkei/kihonhou/mokuji.htm |
| | 科学技術基本計画 | http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/main5_a4.htm |
| | 男女雇用機会均等法 | http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/danjokintou/ |
| | 改正育児・介護休業法 | http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/07/tp0701-1.html |
| | 男女共同参画白書 | http://www.gender.go.jp/whitepaper/whitepaper-index.html |
| | 科学技術白書 | http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kagaku.htm |